



平成 17 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 16 年 7 月 30 日

上場会社名 富山化学工業株式会社

（コード番号：4518 東証第一部）

（URL <http://www.toyama-chemical.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 取締役 代表執行役社長 中野 克彦
責任者役職・氏名 執行役 経営企画部長 水野 淳一

TEL：(03) 5381 3818

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
税金費用及び税効果会計については、法定実効税率をベースとした年間予測税率を用いて計算しております。
最近連結会計年度からの会計処理の変更の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の移動の有無 : 無

2. 平成 17 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注)金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 1 四半期	12,402	-	7,145	-	6,970	-	6,960	-
16 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-	-	-	-	-
(参考)16 年 3 月期	16,830		4,368		5,481		4,899	

	1 株当たり四半期（当期）純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期（当期）純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 1 四半期	35	41	32	66
16 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-
(参考)16 年 3 月期	24	91	-	-

(注)前年同四半期数値及び前年同期比については、四半期財務・業績の概況（連結）の開示を行っていないため記載を省略しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当連結第 1 四半期の売上高は、124億 2 百万円となりました。

このうち、医療用医薬品の売上高は技術料収入を含めて119億75百万円であり、概ね計画通りとなりました。

主力品の注射用ペニシリン系抗生物質製剤「ペントシリン」については、新製剤のバッグ製剤が貢献し、売上高は前年同期実績を上回ったものの、計画値には及びませんでした。経口用ニューキノロン系抗菌製剤「オゼックス」、経口抗生物質製剤「トミロン」は、いずれも計画を上回り順調に推移しました。長期育成品のループ利尿剤「ルブラック」および新製品の注射用ニューキノロン系抗菌製剤「パシル」は、市場浸透が進み前年同期実績を上回ったものの、計画値には及びませんでした。

技術料収入については、主なものとしてニュータイプのキノロン系合成抗菌剤 T - 3811 の米国シェリング・プラウ社への導出が決定し、一時金86億92百万円の計上がありました。

費用面については、計画との大きな乖離もなく順調に推移いたしました。

以上の結果から、営業利益71億45百万円、経常利益69億70百万円、四半期純利益69億60百万円となり、概ね計画に沿った業績推移となっております。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	81,278	38,316	47.1	194 90
16年3月期第1四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	73,969	31,030	42.0	157 83

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	1,010	575	24	16,546
16年3月期第1四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	4,973	5,611	8,501	16,937

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

財政状態の変動状況

当連結第1四半期末の総資産は812億78百万円であり、前連結会計年度末に比して73億8百万円増加いたしました。その主な要因として、当連結第1四半期末で米国シェリング・プラウ社に対する技術料収入の売上債権（売掛金）86億74百万円が計上されたためであります。

なお、当売上債権は7月初旬に全額入金されております。

キャッシュ・フローの状況

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は技術料収入の増加等により税金等調整前四半期純利益が大幅に伸びたものの、売上債権の増加等により10億10百万円の支出（前連結会計年度49億73百万円の収入）となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は有価証券の売却等により5億75百万円の収入（前連結会計年度56億11百万円の支出）となり、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は短期借入金の実行等により24百万円の収入（前連結会計年度85億1百万円の支出）となりました。その結果、当連結第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末残高に比して3億91百万円減少し165億46百万円となりました。

3. 平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

中間期及び通期の業績予想につきましては、当第1四半期における業績が概ね計画通りに推移しており現時点では、平成16年5月17日に発表いたしました業績予想から変更ありません。

上記の予想は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予想を含んで記載しております。

実際の業績は、今後様々な要因によって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

添付資料

- （要約）四半期連結貸借対照表、（要約）四半期連結損益計算書、四半期連結剰余金計算書
- （要約）四半期連結キャッシュ・フロー計算書など

以上

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

科 目	当連結第1四半期末 (平成16年6月30日)		(参考) 前連結会計年度末 (平成16年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)				
流動資産				
1. 現金及び預金	6,364		7,474	
2. 受取手形及び売掛金	12,442		4,030	
3. 有価証券	15,263		15,264	
4. たな卸資産	10,572		10,486	
5. 繰延税金資産	862		861	
6. その他	1,961		2,137	
貸倒引当金	15		6	
流動資産合計	47,452	58.3	40,248	54.4
固定資産				
1. 有形固定資産				
(1) 建物	7,818		7,948	
(2) 機械及び装置	2,021		2,033	
(3) 土地	12,794		12,794	
(4) その他の有形固定資産	1,064	23,698	1,056	23,833
2. 無形固定資産		834		931
3. 投資その他の資産				
(1) 投資有価証券	6,043		5,490	
(2) 繰延税金資産	785		1,004	
(3) その他	2,610		2,599	
貸倒引当金	172	9,267	171	8,922
固定資産合計		33,800		33,687
繰延資産		25		34
資産合計		81,278		73,969
(負債の部)				
流動負債				
1. 支払手形及び買掛金	2,957		3,223	
2. 短期借入金	5,229		5,014	
3. 一年以内償還予定の転換社債	7,941		7,942	
4. 未払法人税等	11		11	
5. 賞与引当金	418		234	
6. 返品調整引当金	3		4	
7. その他	1,833		1,647	
流動負債合計		18,395		18,076
固定負債				
1. 社債	50		50	
2. 長期借入金	9,479		9,581	
3. 繰延税金負債	2		1	
4. 再評価に係る繰延税金負債	2,468		2,468	
5. 退職給付引当金	11,878		11,901	
6. 役員退職慰労引当金	646		696	
7. その他	41		40	
固定負債合計		24,566		24,740
負債合計		42,961		42,817
(少数株主持分)				
少数株主持分		-		121
(資本合計)				
資本金	22,397	27.5	22,397	30.3
資本剰余金	21,538	26.5	21,530	29.1
利益剰余金	5,037	6.2	11,997	16.2
土地再評価差額金	1,565	1.9	1,565	2.1
その他有価証券評価差額金	1,207	1.5	883	1.2
自己株式	224	0.3	217	0.3
資本合計		38,316		31,030
負債・少数株主持分及び資本合計		81,278		73,969

2. (要約) 四半期連結損益計算書

科 目	当連結第1四半期 自平成16年4月1日 至平成16年6月30日		(参考) 前連結会計年度 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
売上高	12,402	100.0	16,830	100.0
売上原価	2,875	23.2	12,129	72.1
売上総利益	9,527	76.8	4,701	27.9
返品調整引当金戻入額	0	0.0	18	0.1
差引売上総利益	9,527	76.8	4,719	28.0
販売費及び一般管理費	2,382	19.2	9,087	54.0
営業利益又は営業損失()	7,145	57.6	4,368	26.0
営業外利益				
1. 受取利息	12		61	
2. 受取配当金	13		61	
3. 受取保険金	10		28	
4. 受取家賃	11		44	
5. その他	15	62	228	425
営業外費用				
1. 支払利息	108		569	
2. たな卸資産評価損	69		250	
3. 持分法による投資損失	1		300	
4. その他	57	236	417	1,539
経常利益又は経常損失()		6,970		5,481
特別利益				
1. 貸倒引当金戻入額	-		7	
2. 有形固定資産売却益	-	-	85	93
特別損失				
1. ソフトウェア除却損失	-	-	161	161
税金等調整前四半期純利益又は、 税金等調整前当期純損失()		6,970		5,550
法人税、住民税及び事業税	10		34	
法人税等調整額	0	10	345	310
少数株主損失()		-		340
四半期純利益又は、 当期純損失()		6,960		4,899

3. 四半期連結剰余金計算書

科 目	当連結第1四半期 自平成16年4月1日 至平成16年6月30日		(参考) 前連結会計年度 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	
	金 額 (百万円)		金 額 (百万円)	
(資本剰余金の部)				
資本剰余金期首残高		21,530		21,530
資本剰余金増加高				
1. 自己株式処分差益	6		-	
2. 社債の転換	0	7	-	-
資本剰余金四半期(期末)残高		21,538		21,530
(利益剰余金の部)				
利益剰余金期首残高		11,997		7,098
利益剰余金増加高				
1. 四半期純利益	6,960	6,960	-	-
利益剰余金減少高				
1. 当期純損失()	-	-	4,899	4,899
利益剰余金四半期(期末)残高		5,037		11,997

4.(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当連結第1四半期	(参考)
	自平成16年4月1日 至平成16年6月30日	前連結会計年度 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
1.税金等調整前四半期純利益又は当期純損失()	6,970	5,550
2.減価償却費	356	1,630
3.長期前払費用償却額	4	20
4.繰延資産償却額	8	34
5.貸倒引当金の増減額(減少:)	11	9
6.賞与引当金の増減額(減少:)	184	221
7.退職給付引当金の増減額(減少:)	22	287
8.役員退職慰労引当金の増減額(減少:)	50	12
9.受取利息及び受取配当金	25	123
10.支払利息	108	569
11.持分法による投資損失	1	300
12.有形固定資産除却損	1	43
13.ゴルフ会員権等評価損	0	20
14.売上債権の増減額(増加:)	8,412	12,799
15.たな卸資産の増減額(増加:)	86	1,669
16.未収入金の増減額(増加:)	219	257
17.仕入債務の増減額(減少:)	246	430
18.未払金の増減額(減少:)	174	1,487
19.未払消費税等の増減額(減少:)	25	401
20.その他	115	6
小計	1,011	5,477
21.利息及び配当金の受取額	25	121
22.利息の支払額	24	496
23.法人税等の支払額()	0	128
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,010	4,973
投資活動によるキャッシュ・フロー		
1.有価証券の取得による支出	1,998	12,189
2.有価証券の売却による収入	2,498	7,593
3.有形固定資産の取得による支出	74	188
4.有形固定資産の売却による収入	0	169
5.無形固定資産の取得による支出	7	53
6.投資有価証券の取得による支出	44	871
7.投資有価証券の売却による収入	1	270
8.定期預金の預入による支出	60	2,169
9.定期預金の引出しによる収入	288	1,787
10.貸付金の回収による収入	3	23
11.その他	30	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	575	5,611
財務活動によるキャッシュ・フロー		
1.短期借入れによる収入	600	12,823
2.短期借入金の返済による支出	360	28,702
3.長期借入れによる収入	-	8,000
4.長期借入金の返済による支出	126	590
5.少数株主への配当の支払額	94	-
6.自己株式の取得による支出	12	32
7.自己株式の売却による収入	17	-
8.配当金の支払額	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	24	8,501
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	1
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	391	9,141
現金及び現金同等物の期首残高	16,937	26,079
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	16,546	16,937

医療用医薬品等主要製品売上高

(単位：百万円)

	平成 17 年 3 月期 (予想)		平成 17 年 3 月期 第 1 四半期
	中間	年間	
医療用医薬品	15,090	22,190	11,975
ペントシリン	1,850	3,700	856
トミロン	1,300	2,900	739
オゼックス	750	1,800	406
ルブラック	650	1,200	237
パシル	550	1,100	256
つくしAM散	340	600	179
ハロスポア	220	450	97
タゾシン	200	400	101
その他	730	1,540	371
技術料収入	8,500	8,500	8,733
医療用医薬品以外	310	410	107
単体合計	15,400	22,600	12,082
連結子会社	1,100	2,200	319
連結合計	16,500	24,800	12,402

新製品開発状況

開発段階	開発番号 または 商品名	剤形	薬効	特徴	備考
申請中	T-614	経口剤	抗リウマチ剤	疾患修飾型抗リウマチ剤(DMARD)。炎症性サイトカイン産生の抑制作用、免疫グロブリンの産生抑制作用を有しており、関節リウマチの改善作用が期待できる。 2003年9月申請済み。	<国内> エーザイと共同開発 <海外> 南アフリカ: Phase a 終了(自社) 韓国: 東亜製薬へ導出
申請中 (適応症 追加)	パシル点 滴静注液	注射剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	国産初の注射用ニューキノロン系抗菌製剤。2002年9月発売済み。幅広い領域の適応症を有し、軽症～重症の感染症に優れた効果を示す。また従来のニューキノロン剤で懸念されている中枢神経作用や過敏症などの重大な副作用発現率は低く安全性が高い。2004年4月申請済み。	「レジオネラ感染症」の 効能追加
申請中	TN-3262a	点眼剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口剤「オゼックス錠」の点眼剤として開発。ニューキノロン系点眼剤として初めて小児を対象とした臨床試験を実施し、有効性と安全性を確認した。また、点眼液として初めてクラミジア結膜炎(トラコーマ)の適応症を申請。 2004年6月申請済み。	<国内> ニデックと共同開発 大塚製薬と販売提携 <海外> 韓国: 東亜製薬へ導出
Phase	T-3811	経口剤	ニュータイプ のキノロン系 合成抗菌剤	既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に高い抗菌力を示す。また、安全性面では関節毒性が弱いことより、小児への適応の可能性も考えられる。	一般名: Garenoxacin <国内> 大正製薬と共同開発 <海外> 米国シリング・プラウコーポレーションへ導出
Phase		注射剤			
Phase	T-588	経口剤	アルツハイマー型痴呆症・脳血管障害後遺症治療剤	神経細胞保護作用、神経突起進展促進作用を有している。アルツハイマー型痴呆症を対象とした臨床試験を実施。一方、緑内障にも有効性が期待される。	<海外> 英: Phase a 終了(自社) 導出検討中
非臨床 試験	T-5226 (AP-1 阻害剤)	経口剤	抗リウマチ剤	転写因子 AP-1 を阻害することより、免疫異常だけでなく、関節破壊をも抑えることができ、関節リウマチの根本治療薬として期待できる。	科学技術振興機構からの国内開発委託事業。 自社開発